

人づくりに1世紀

お蔭様で スカウト運動は、創始100年を迎えました。

▼ 減った減ったと騒ぐけど 100年前は20人でした。

1907年、英国の軍人ベーデン・パウエルは、長年のインドやアフリカでの冒険体験を、母国の退廃する青少年のために生かせないかと、20人の子どもたちとともに無人島で実験キャンプを行いました。

このキャンプは大成功をおさめ、子ども向けの遊びの手引『スカウティング・フォア・ボーイズ』を著しました。

これが当時ベストセラーとなり、子どもたちはグループを組んでキャンプに出かけたり、救急法を身に付けて人助けをしたり、子どもの可能性を伸ばす大きな社会現象となりました。

▼ ピュアな心がある限り、子どもの成長を願う大人がいる限り、人づくりは不減です。

わが子とスカウト運動との出会いを、こんなに喜んでお母さんの手記をご覧ください。

このために京都では1,784名、全国では67,225名の成人が子どもとともに過ごす時間を大切にしつつ、お互いの喜びとして分かち合っています。

祝
子どもを共に育む
京都市民憲章制定

ともに、頑張りましょう！



11月よりお世話になり、何とか二ヶ月がたとうとしております。初めての体験ばかりの中、内気な中にもスカウトと共に活動し、一つの目的に向かって過ごす時間は掛け替えの無いものになっている様です。…といたしますのも、チャレンジ章の本を開いては、「今度はこれに挑戦する」という言葉や、隊の連絡網での事前連絡を拙いながら一生懸命伝えようとする姿はとても健気で、今まで見ない一面です。

指導者の方々の子供たちに関わる真摯な姿勢に日々感服しています。人は経験している中身が多いほど、生活の知恵や仲間の大切さ、人を思いやる気持ちが培われると思いますので、入団させて頂き本当によかったです。

隊長はたまたま外国の方だったわけですが、ひとりの人間として、しっかりと指導を受けとめて身近な存在として、また世界へも目を向けていてくれたらと思います。スカウトたちの国籍を問わない素直な反応はほほえましい中に、自然体で学ぶ・育つという成果の一つという風に感じました。「国際性や国際感とは…？」などと机上でできる学習ではないのですね。

また過日の募金活動に対する感謝状を、とてもうれしそうに持ち帰りました。初めて親以外の人に形として残るもので認められたプラスの体験は忘れることは無いでしょう。

まだまだ始まったばかり、どのようになっていくのか未知数ですが現在進行形の息子は良いスタートをきらせて頂いたことに間違いはありません。それだけは自身を持ってご報告できます。今後とも親子共々よろしくお願ひ申し上げます。

